

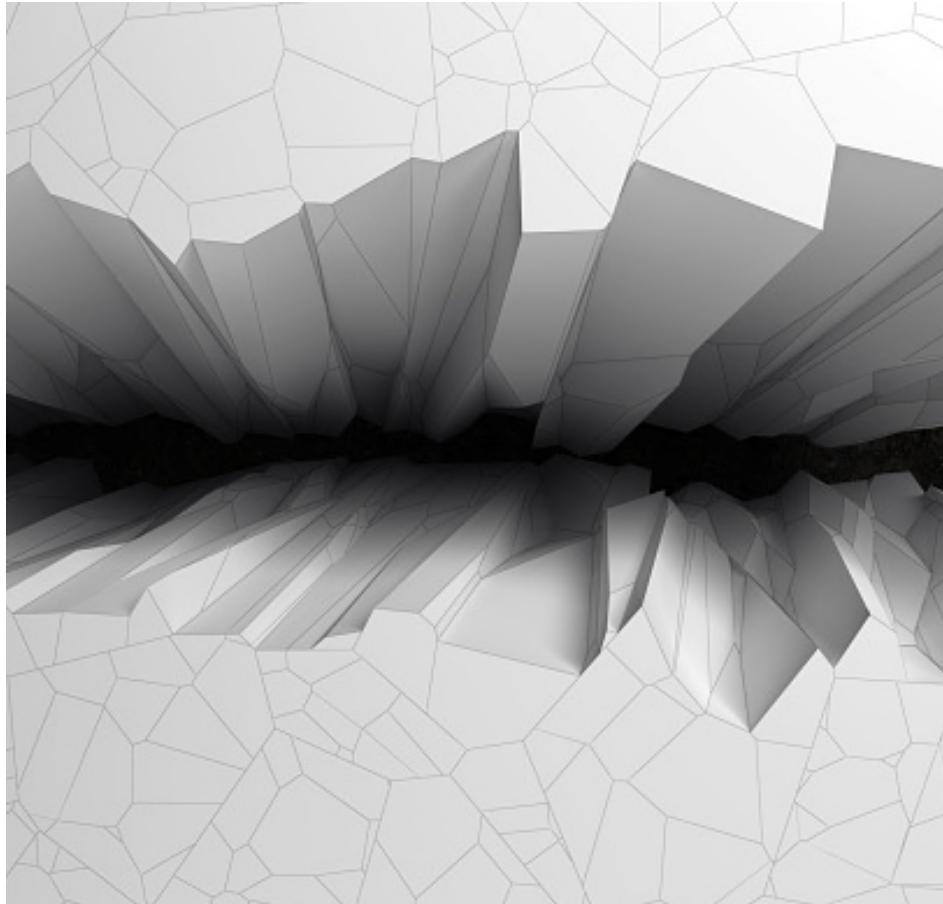
ブレンディド・ファイナンスとは？

～サステナビリティ投資の新たな機会の創出～

アムンディ・ジャパン チーフ・レスポンシブル・インベストメント・オフィサー

岩永泰典

資金ニーズと投資のギャップ



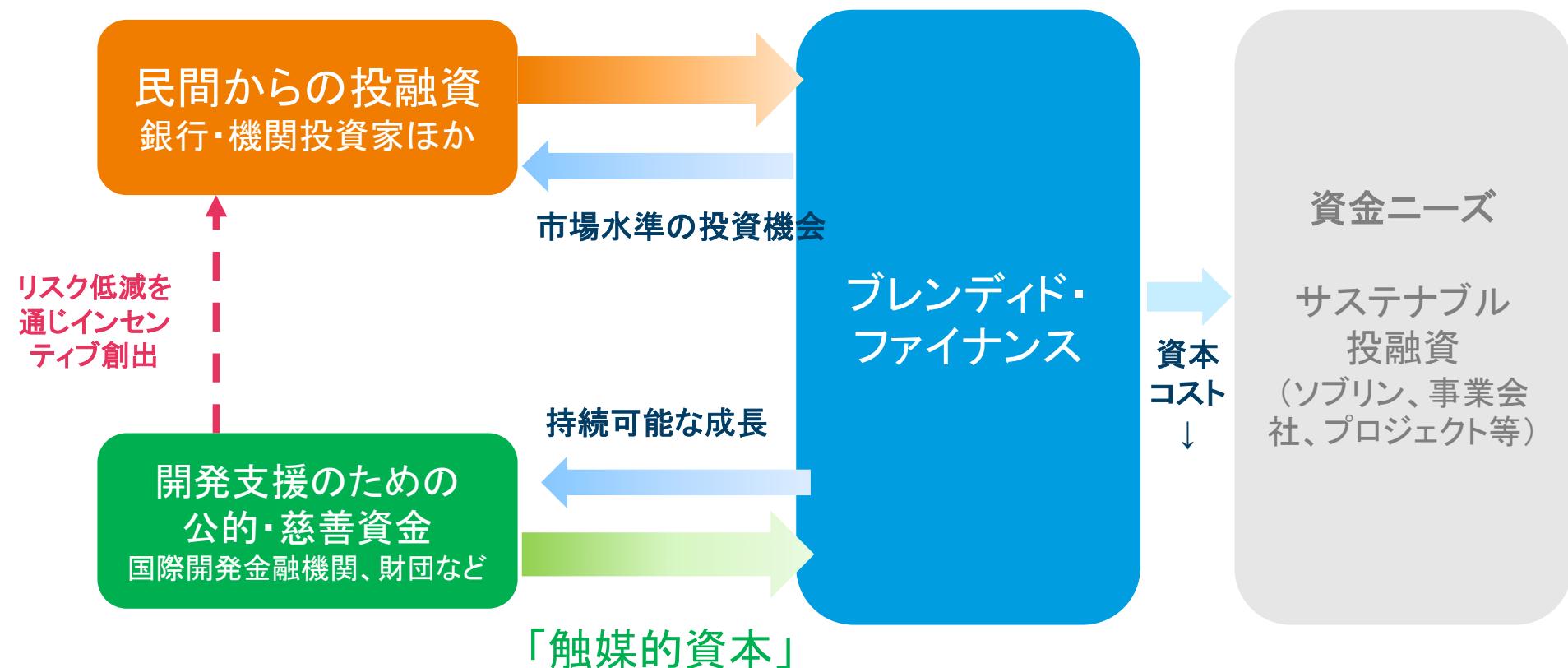
持続可能な社会を実現するための
巨額の投資を如何にファイナンスす
るか

- ✓ 公的資金の提供には限界
- ✓ 民間資金を呼び込む必要性

ブレンディド・ファイナンス

Blended Finance

公的資金や慈善資金がスポンサーとなって、民間セクター資本を導入するためのストラクチャー = 「民間と公的資金のブレンド」



出典:Convergence(2024) State of Blended Finance 2024 Figure 1 をアムンディにて再構成

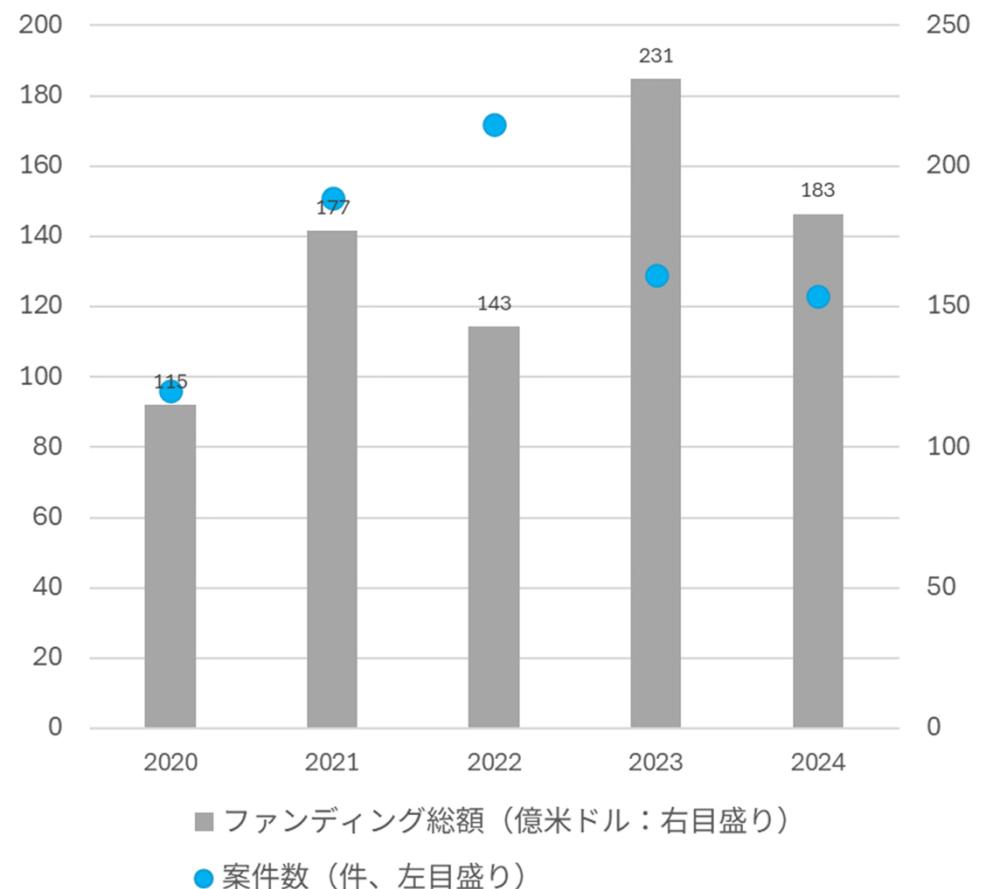
ブレンディド・ファイナンスの実績

■ 2024年実績

- ファンディング額: 183億ドル(約27兆円)
- 案件総数: 123

□ うち、気候変動関連の案件

- ファンディング額: 113億ドル(約17兆円)
- 案件総数: 60



出典: Convergence(2025) State of Blended Finance, Spring 2025 Figures 1 and 2をアムンディで再構成

特徴

リスクを協同で負担しつつ、それぞれの目的達成を目指す

■「触媒的資本」 Catalytic Capital:

- ・市場水準よりも優遇した条件での投融資:
 - ・市場実勢を下回る金利、長期返済期間、元本・利子支払い猶予期間、等
- ・保証や保険、エクイティを提供して公的資金がリスクを引き受けことで、民間資金導入のインセンティブを提供

■レバレッジ:

- ・民間が追加的な資金を提供することで、より大きな資金ニーズに対応



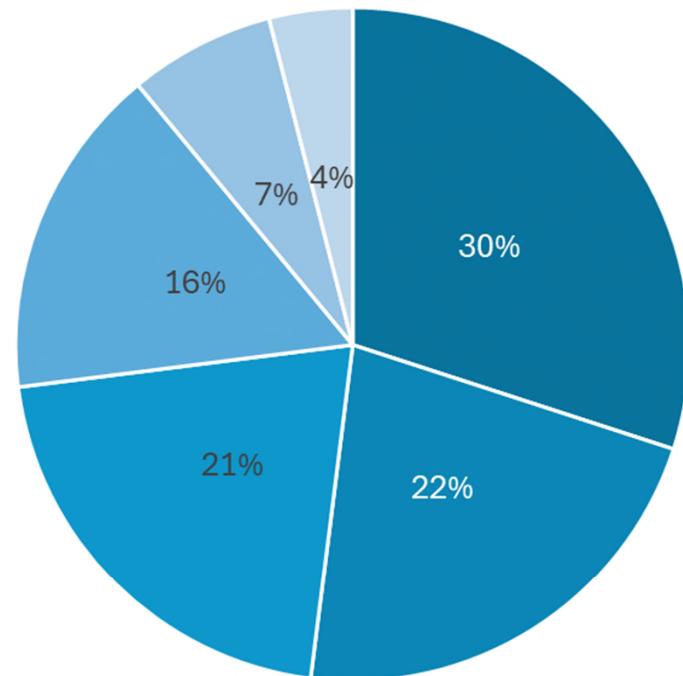
「ブレンド」の形態

プロジェクトリスクの低減、投資リスクの一部負担

- コンセッショナル資本: 資本コストを低減、損失発生時のクッション提供
- 信用補完: 債務履行保証・リスク発生時の保険
- プロジェクト収益や開発面でのインパクト向上にむけた技術援助(Technical Assistance)への助成金
- プロジェクト設計段階における助成金

投融資ではないが案件の質の向上をサポート

2022-24年における割合(金額)



- コンセッショナル資本 (デット・エクイティ)
- 保証・保険
- 投資時の助成金
- 技術援助のための助成金
- 劣後債務
- 設計段階の助成金

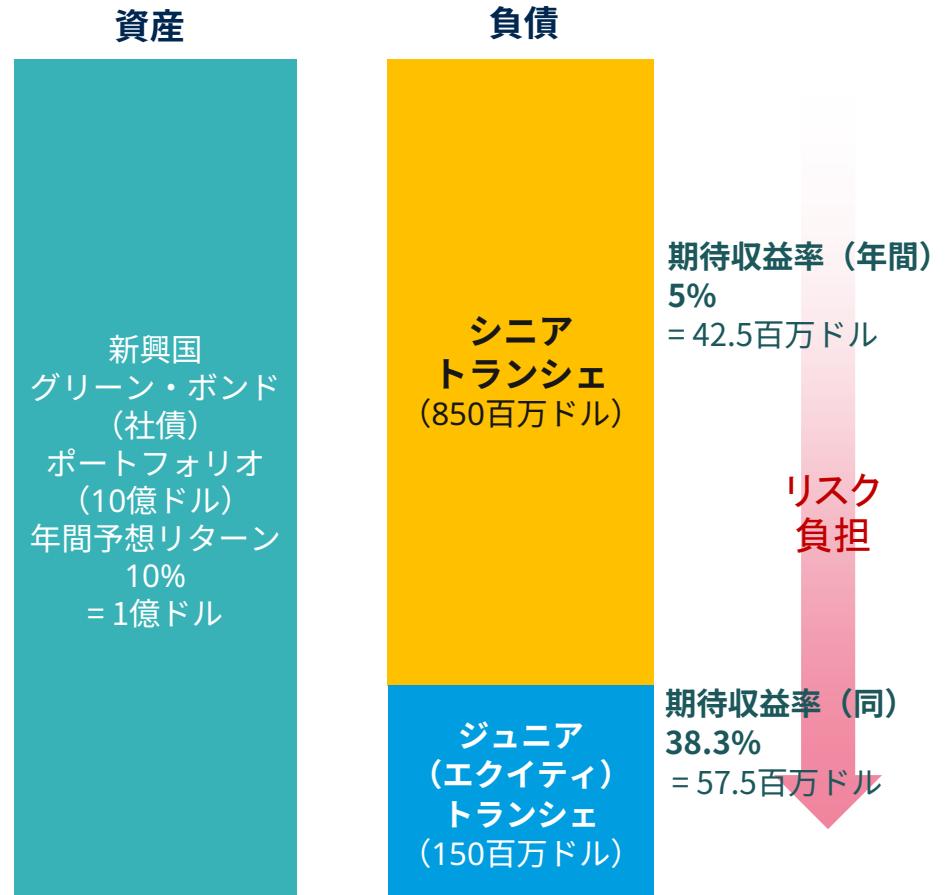
出典: Convergence (2024) State of Blended Finance 2024

ストラクチャードBFファンド

優先劣後構造を持つ投資法人

機関投資家からの資金受け入れ手法として活用*

- 運用サイド: 分散投資によりリスクをコントロール(例、GSS債、ローン債権等)
- 調達サイド: スポンサーはコンセッショナル資本を用いて、ジュニア部分に投資投資
 - ✓ シニア投資家にとってのクッション
- 信用補完
 - ✓ ファーストロス・ギャランティ等



*Convergenceの調べでは、2024年のBFファンディング実績183億ドル中、51億ドルがファンド形式

出典: アムンディ・インベストメント・インスティチュート「ブレンディド・ファイナンス:持続可能なインパクトへの資金拡大」2025年10月、Convergence (2024) State of Blended Finance 2024

ストラクチャリング

新興国・開発途上国投資に関するリスク緩和手段



ストラクチャリング

民間資金を動員するためのリスク削減手段の例

ポートフォリオレベル

■ レバレッジ比率抑制

- ファンドのシニア部分とジュニア部分の相対的割合：ジュニア部分を厚めに設計

■ ファーストロス・ギャランティ

- 投融資先の債務不履行時に発生し得る損失を資産サイドのリスクをもとに推定し、一定割合（金額）まで補填する取決め

■ カレンシーリスク・ヘッジ

- 資産サイドのキャッシュフローが現地通貨の場合。TCX*（カレンシー・エクスチェンジ・ファンド）*などを活用しハードカレンシーに交換

個別取引・プロジェクトレベル

■ 政治リスク保険

- 収用、戦争・内乱、契約不履行、送金・兌換制限などの非商業的・政治的リスクに対する保険

■ 部分信用保証

- 個々の取引に付される部分的な債務保証。一定期間（例：建設期間中）やリファイナンス時を対象にするなど設定に自由度

*TCX: 2007年に欧州の複数の開発金融機関などの出資で設立、銀行間取引が通常取り扱わない通貨、期間を対象にフォーワード、通貨スワップで値付けを行う。
<https://www.tcxfund.com/concept-structure/>

出所: Amundi, How can investors lean into blended finance structures: demystifying credit enhancements, October 2025

今後の展望

- ▶ ブレンディド・ファイナンスには、新興国・開発途上国向けの資金ギャップを緩和する手段としての期待
 - 普及のためには、複雑な構造を避けつつ、標準化させることが課題
 - 投資対象に関する情報の非対称性緩和＝開示、データ

- ▶ 関係者それぞれの目的をつなぐ「触媒的資本」が、サステナブル投資の規模拡大に寄与する可能性

熱帯雨林保全資金
移行のための資金
コスト↓期間↑規模↑

社会的目標
気候変動緩和・適応、
生物多様性保全など

リスク調整後
リターンの最大化

スポンサー

インパクト
投資

投資一般

本資料のご利用に当たっての注意事項等

本資料は、弊社が一般・参考情報の提供を目的として作成した資料です。

本資料は、本資料に含まれるいかなる金融商品の販売や媒介を意図、または購入・売却の勧誘を目的としたものではありません。

本資料は法令に基づく開示資料ではありません。

本資料中に記載した弊社等の見通し、予想、予想意見等(以下、見通し等)は、当資料作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また、見通し等や過去の運用実績を含むいかなる内容も、将来の投資収益等を示唆または保証するものではありません。

本資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性、完全性について保証するものではありません。

本資料に記載されている内容は、全て本資料作成日以前のものであり、今後予告なしに変更される可能性があります。

本資料に含まれる情報から生じるいかなる責務(直接的、間接的を問わず)を負うものではありません。

弊社の許可なく、本資料を複製または再配布することはできません。

アムンディ・ジャパン株式会社

金融商品取引業者登録番号:関東財務局長(金商)第350号

加入協会:一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

日本証券業協会

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

5123111